

子どもの体操競技継続に関する保護者の意識と要因

順天堂大学
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4118018
氏名：齋藤 孝史

【目的】

本研究では、子どもの体操競技継続に影響を与えると考えられる保護者の意識とその要因を明らかにすることを目的とした。

【方法】

小学生または中学生の子どもをもつ保護者を対象に質問紙調査を実施した。379部の質問紙を配布し259部（回収率68.3%）を回収、そのうち有効回答は250部であった。

【結果】

本調査における保護者は全体的には比較的子どもの体操競技継続を希望しているものの、それほど継続を希望していない保護者の存在が明らかになった。また、子どもの目標としている大会レベルが高く、体操競技での「将来の活躍」を期待する保護者や、体操競技を通して「道徳的側面」や「対人関係的側面」について得るものが多いと考えている保護者ほど子どもの体操競技継続を希望する傾向にあることが示唆された。一方、競技継続を希望しない保護者は、体操競技よりも学業に専念してほしいという考えや、子どもが選択したスポーツ種目を応援したいという考えを有していることが推察された。

【結論】

本研究により、子どもの目標としている大会レベルが高く、体操競技での「将来の活躍」を期待する保護者や、「道徳的側面」や「対人関係的側面」などの体操競技の有効性を認識している保護者ほど継続を希望する傾向が示唆された。